

祖師先徳鑽仰大法会 総結願法要厳修 (於・比叡山延暦寺)



発行日
令和5年8月1日
発行所
高崎市中尾町1261
TEL.027(362)5620
天台宗群馬教区宗務所
発行人
三浦 祐 俊
編集責任者
今村 孝 道
印刷所
芝入印刷株式会社
TEL.027(253)4937



大樹孝啓天台座主猊下

天台宗において、平成二十四年四月より十一年間に亘り奉修された『祖師先徳鑽仰大法会』（「慈覚大師一千五百年大遠忌」・「恵心僧都一千年御遠忌」・「伝教大師御生誕一千二百五十年」・「相応和尚一千百年御遠忌」・「伝教大師一千二百年大遠忌」）も魔事なく円成し、コロナ禍で一年延長とはなりましたが、令和五年三月十六日、ついに結願の日を迎え、天台座主猊下御導師のもと、延暦寺根本中堂にて、総結願奉告法要が厳修されました。



健康で長生きを

群馬教区布教師会会長
角田 興憲

普段の生活で特に気をつけて食事をしている、進んでスポーツをしている、家庭菜園や清掃などで体を動かしている。ただこのような事に気を向けて始めるのは年齢を重ねて老人と呼ばれるようになってからだと思います。

毎年二回中学校の同級生とゴルフをする機会が数十年続いています。コロナ前はお決まりで終了後は小さなパーティが開かれたものでした。当然、本日のプレーのあれこれをお互いに称賛、貶し、それは言いたい放題でした。それが十五、六年前から、話題が孫の話になり、携帯電話の待受画面が孫の写真ばかりで皆で見せ合い、互いに「あ、だ、こくだ」と楽しく話していたものでした。十年ほど前からは皆の話題が病気に代わって、この前は何の病気で入院したとか、誰々は手術したとか、今はコレコレの病気で複数の薬を服用しているとか、皆が話題に参加できるほど様々な病気を抱えているのだと感心してしまいます。実際に現在も治療を続けている人は、治療方法について

経験的説明や、何の病気の治療はこうするのがベストだとか、様々な病気の話が飛び交うので、その場に居るだけで病気を理解できた様になってしまいます。

人は確実に年齢を重ねていくのです。二十年、十五年、十年と人生においても楽しい事ばかりでなく、重く辛い、悲しい経験をされていることとでしょう。それでも今、幸せに過ごせたのは、自分の体調不良や治療中の病気のことで、家族の健康状態が良く、家の中がうまく回っているためだと感謝しています。同級生の病気の話も自分が健康を持ち続けたいと思う気持ちと、笑い話にしてしまう前向きな気持ちを持ち、健康への努力をしなくてはいけないでしょう。

伝教大師の『山家学生式』の中には「己を忘れて他を利する」という言葉があり、もし近くの方が病に倒れたら自分は替われないけれど、その人のために自分が出来る最善を尽くしてあげる気持ちを常に持ちたいと思います。

ぜひ、皆様にとりましても、健康で元気に過ごしていくことが大事であり、常に自分の目標らしきものを定めて長生きする努力をしていきましよう。



ごあいさつ

群馬教区檀信徒会連盟会長
神宮 直仁

長い間、コロナ禍による諸事業の中止、縮小、外出の抑制等があり、会員皆様も不自由な生活を強いられたことと思います。

当会も教区全体の総会ができず、役員総会や書面議決等の方法で対処して参りました。今年は、昨年と同様に、人数制限をして、各部の代表役員出席の下、教区全体の総会をJAビルにおいて縮小開催することができました。

また、十一年に亘る慶讃大法会は本年三月、無事に結願を迎えることができました。皆様の永きにわたるご支援に厚く御礼申し上げます。根本中堂の改修工事も残り数年となりましたが、引き続きご支援をお願いいたします。

六月には、伝教大師最澄上人の命日を期して、教区でも規模を縮小して鬼石町の浄法寺で法要と清掃活動を行いました。

コロナ対策も五類に移行したとはいえ、まだまだ安心できません。皆様にはコロナに罹患せぬよう注意して、健康で幸せな生活を送られるようご祈念申し上げます。



1年目

平成24年11月
群馬教区御親教授戒会
半田孝淳天台座主猥下をお招きし奉修
伊勢崎市・華藏寺(戒弟158名)
及び前橋市・大福寺(戒弟153名)にて

2年目

「慈覚大師1150年御遠忌」
祥当日 平成25年1月13日

平成25年11月
本山教区団体参拝
結縁灌頂の実施と
慈覚大師1150年御遠忌法要の厳修
比叡山にて

3年目

平成26年10月
第11回「一隅を照らす運動」
群馬大会の実施
参加者=1300名
東日本大震災慰霊・復興祈願法要
富岡市・かぶら文化ホールにて

平成26年11月
「一隅を照らす運動45周年」
東日本大震災復興祈念大会へ参加
群馬教区東日本大震災慰霊法要の厳修
福島県郡山市にて

5年目

平成28年5月
檀信徒会連盟・伝道師会連盟
平成28年度総会並びに合同研修会
露の団姫師を講師に迎え恵心僧都の
業績についての講演

「恵心僧都1000年御遠忌」
祥当日 平成28年6月10日

「伝教大師御生誕1250年」
祥当日 平成28年8月18日

平成28年9月
第一回浄法寺伝教大師報恩法要
並びに清掃奉仕活動
(以降継続開催し令和5年で第8回を数える)
藤岡市・浄法寺にて

6年目

平成29年6月
檀信徒会連盟・伝道師会連盟
平成29年度総会並びに合同研修会
上原行照大行満大阿闍梨を講師に
迎え相応和尚の業績についての講演



祖師先徳鑽仰大法会 十一年間のあらしまし

天台宗では平成二十四年度から令和四年度を『祖師先徳鑽仰大法会』期間と位置づけ、『道心』から山川草木みなほとけ』を統一標語として掲げ、様々な事業を展開してまいりました。
群馬教区におきましても、伝教大師をはじめ、大法会期間中に遠忌を迎えられた祖師方(慈覚大師、恵心僧都、相応和尚)の御遺徳を偲び、教区一丸となって報恩謝徳の念を発して、数多くの行事を重ねてまいりました。
大法会十一年間に亘る教区の歩みを、ここに改めて振り返ります。

南前橋部 永福寺住職



谷 晃仁 師
世界仏教徒青年連盟
副理事長に就任
(令和4年10月18日付)

新住職紹介



南前橋部 圓福寺
村田 亮順 師

得 度

西前橋部 光巖寺
田中 隆順 師

西前橋部 光巖寺
田中 清順 師

西前橋部 昌樂寺
岩田 乘弘 師

西前橋部 昌樂寺
綾小路 乗縁 師

西前橋部 妙見寺
川崎 晃新 師

予 告

令和五年十月三十日(月)～十一月一日(水)
檀信徒祖山参拝研修会
於、比叡山延暦寺

令和五年十一月五日(日)～十一月七日(火)
伝道師補任祖山研修会
於、比叡山延暦寺



6年目

平成29年9月
群馬教区「特別授戒会」
叡南覚範探題大僧正をお招きし奉修
戒弟310名
高崎市・下之城プリエッセにて
「相応和尚 1100年御遠忌」
祥当日 平成29年11月3日

平成29年10月(9日間)
伝教大師東国巡錫1200年
記念特別事業
-宗祖のお徳を偲ぶ報恩の集いと行脚-
廣濟院・廣拯院～浄法寺



8年目

令和元年7月
「一隅を照らす運動」発足50周年記念
第12回「一隅を照らす運動」
群馬大会の実施
参加者=2000名
綾小路きみまろ師匠をお招きし開催
高崎市・群馬音楽センターにて



10年目

「伝教大師 1200年大遠忌」
祥当日 令和3年6月4日
令和3年6月
伝教大師 1200年大遠忌
群馬教区報恩法要
(大師尊像修復前の法要)
藤岡市・浄法寺にて
令和3年8月
浄法寺伝教大師金色尊像
メンテナンスと相輪櫓補修事業
教区内御寺院御浄財により実施
令和3年11月
伝教大師 1200年大遠忌
群馬教区報恩法要
(大師尊像修復後の法要)
藤岡市・浄法寺にて



11年目

令和4年10月
伝教大師 1200年大遠忌
群馬教区報恩法要
比叡山延暦寺根本中堂にて



シリーズ群馬の寺々 第五十二回

東前橋部 医王山薬王院 東壽寺

前橋市粕川町月田四六四

住職 青柳 興雅

当山は、弘仁八年(八一七年)

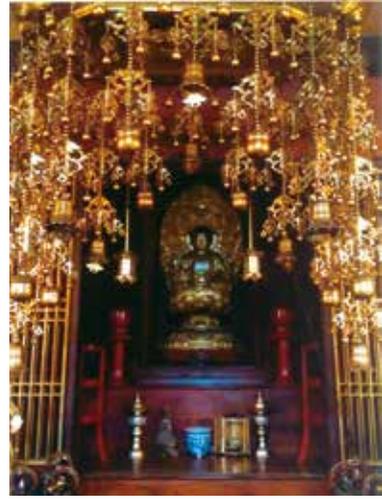
開山と伝承されている。寺伝によれば、伝教大師が、日本に六カ所の相輪様を建てたため、東国巡錫の折、上野国(群馬県)から下野国(栃木県)へ行く途中に立ち寄り、念持仏の薬師如来を民衆の安穩のために永世にわたり寺の本尊として祀れと住僧に贈ったことに始まると伝えられている。寺の名称の医王山薬王院東壽寺はこれに由来する。

当山は、当初は桐生市新里町山上にあったが、天正十八年(一五九〇年)に武田軍に攻められ山上城が落城した後、粕川町西田面に移った。その後粕川町月田の現在地に移ったがその時期は定かではない。現在の本堂は享保二十年



本堂

本堂左側には、護摩壇があり、元三大師と聖観音が祀られている。元三大師は、一月三日が縁日だが、当山では一月七日に厄除け元三大師護摩供が奉修される。聖観音は、



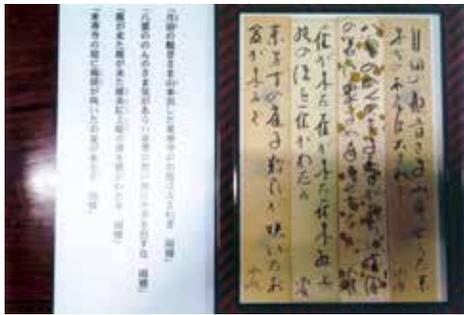
本尊薬師如来

子育て観音と呼ばれ、九月九日の観音様のお祭りでは山車が出され、地域の子供たちの安全を祈る護摩が行われる。

十六世興敬

(一七三五年)に來住した天山智映が宝暦十年(一七六〇年)に建立したものである。天山智映は、住職となり三十年余りをかけて寺の再興に尽力し、山門、庫裏、土蔵、長屋なども建立した。寺では天山智映を中興開山と称している。また天山智映は、行年九十一歳の長寿であったため、本尊の薬師如来は、「月田の延命薬師」と呼ばれている。この薬師如来は、伝教大師の念持仏が胎内仏として蔵され、永代の秘仏とされていて、脇待の日光、月光菩薩、十二神将と共に天正十四年(一五八六年)の作と言われている。

は、「青柳花明」の名で童謡詩人として活躍し、僧侶という立場から童謡に仏教を取り入れ、生涯に二千遍を超える詩や作品を創作している。童謡詩人として交流のあった野口雨情は大正十四年(一九二五年)の夏、東壽寺を訪れ「月田の観音さま山車出した東壽寺の庭は大さわぎ」と即興詩を詠んでいる。



野口雨情 短冊

群馬教区令和四年度 「一隅を照らす運動」年次大会開催

「一隅を照らす運動」群馬教区本部(三浦祐俊教区本部長・門倉政仁教区本部長)は三月十日、令和四年度「一隅を照らす運動」年次大会を前橋市のJABビルで開催し、教区内寺院の僧侶、檀信徒合わせて約一二〇名が参加し、法要、研修会などを通じて研鑽を深めました。

「一隅を照らす運動」総本部長・竹内純照師を講師としてお招きし、一隅を照らす運動の基本方針及び推進事業について御講演を頂き、伝教大師が「山家学生式」をもとに、生涯を通じて人材育成に力を尽くされたことが伝えられました。また、国際目標であるSDGsの十七の目標をもとに、

現代社会において

一人ひとりが実践できる「一隅を照らす運動」について、節電を心掛けることによる二酸化炭素の削減やフードロスの削減により地球上のあらゆる命を守るなど具体的な例を挙げ分りやすく解説頂きました。閉会式では、全国一斉鉢地球救援募金、並びにトルコ・シリア地震義援金が「一隅を照らす運動」総本部へ贈呈され、最後に参加者全員で「一隅を照らす運動」総本部基本方針、及び「一隅を照らす運動」群馬教区本部の基本方針を唱和し、大会を終えました。

開会式では、三浦教区本部長が導師を務め、教区内諸大徳出仕のもと東日本大震災物故者十三回忌法要を執行し、参加者全員で般若心経・念仏をお唱えし、震災物故者のご冥福をお祈りしました。



研修会の様子

令和五年七月三日、伊勢崎市文化会館において、第十三回「一隅を照らす運動」群馬大会が開催され、約八百名の参加者のもと、盛大に執り行われました。大会の詳細は、次号にてお伝えいたします。

第十三回「一隅を照らす運動」群馬大会

群馬教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟各総会及び合同研修会開催

群馬教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟の、令和五年度総会及び各総会では、理事会にて可決された議案について報告承認がなされ、続いて会場を大ホールに移して、合同の研修会が行われました。

研修会では、参加者全員で『伝教大師和讃』をお唱えした後、角田興憲群馬教区布教師会会長による「伝教大師の教え」と題した講演が行われ、一同は熱心に聴講し、大師のご生涯への理解を深めました。



研修会の様子

第八回浄法寺伝教大師報恩法要並びに清掃奉仕活動開催

六月七日、多野部・浄法寺(緑野智彦住職)において、第八回目となる「伝教大師報恩法要並びに清掃奉仕活動」が、教区内住職並びに檀信徒・伝道師約八十名の参加により執り行われました。

はじめに、伝教大師金色御尊像前にて、小川晃豊群馬教区顧問御導師のもと、参加者全員にて『伝教大師和讃』をお唱えし、続いて坂東順海群馬教区布教師会事務局員による、「浄法寺のお大師さま」と題したご講演を聴講。その後、大師への報恩感謝の思いを胸に、各自心を込めて清掃奉仕活動を行いました。



境内参拝の様子